

症例

オクトレオチドが長期間奏効した肺非定型カルチノイド術後再発の一例

笹本 磨央 1) 2) 柴田 祐司 1) 宇田川 響 1)
中井 登紀子 3) 二宮 浩樹 2) 後藤 功一 1)

- 1) 国立がん研究センター東病院 呼吸器内科
- 2) 医療法人社団圭春会小張総合病院 呼吸器内科
- 3) 国立がん研究センター東病院 病理・臨床検査科

要旨：症例は41歳女性。X-8年に肺非定型カルチノイドの診断で手術を施行した。その後、遠隔転移再発に三度の手術を施行した。X年に多発頸部リンパ節転移を認め、ソマトスタチン受容体シンチグラフィ（Somatostatin Receptor Scintigraphy：SRS）で同部位への集積を認めたため、オクトレオチドを開始した。投与1ヶ月で腫瘍は著明に縮小し、5年以上奏効が持続している。オクトレオチドは毒性が少なく、特にSRS陽性例では有用な治療選択肢となる可能性がある。

キーワード：肺カルチノイド，非定型カルチノイド，オクトレオチド，ソマトスタチン受容体シンチグラフィ
Pulmonary carcinoid (PC), Atypical carcinoid (AC), Octreotide, Somatostatin Receptor Scintigraphy (SRS)

短縮タイトル

オクトレオチドが長期奏効した肺カルチノイドの一例